

# 令和6年度 利用者懇談会 於：中央図書館

日 時：令和6年8月3日（土） 午前10時から正午まで

場 所：中央図書館 2階活動室2・3

出席者：利用者：16人

図書館職員：5人

図書館長、企画運営担当1主査、サービス係長、サービス係職員、企画運営担当1職員（2人）

- 
- |                       |       |
|-----------------------|-------|
| 1. 職員及び参加者自己紹介        | (10分) |
| 2. 図書館の利用実績及び計画に関する説明 | (30分) |
| 3. 意見交換               | (80分) |

## 内容（要旨）

- (1) 令和5年度多摩市立図書館利用状況
- (2) (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について
- (3) 意見交換
- (4) 閉会

### (1) 令和5年度多摩市立図書館利用状況

図書館：配布している「多摩市の図書館 概要版」に沿って図書館の利用状況を説明する。

- ・オンラインデータベース

中央図書館の開館に合わせて令和5年度から増やし、13タイトルある。過去の新聞や経済情報を中心に全館で閲覧できるコンテンツも用意している。

- ・登録者数について

令和6年3月31日時点で53,833人の方が登録しており、令和5年度の新規登録が16,000人ほどであった。人口に対する登録者の割合は、27.6%であり、前年度と比較して、増加した。

- ・貸出・予約の利用実績について

貸出者数は80万人、貸出点数は160万点程度であり、予約は49万点といずれも前年度と比較して増加している。

- ・イベントについて

令和5年度は多くのイベントを実施した。本館の閉館イベントは4月から5月にかけて、図書館主催イベント3イベント、市民協働でのイベント6イベントを実施。中央図書館の開館イベントは、図書館主催イベントが10イベント、その他市民協働や地域の大学との連携、周辺企業との連携イベントを25イベント実施した。

- ・子どもへのサービスについて

学校の図書館訪問や図書館見学など継続して実施している事業がコロナ前の水準に戻ってきている印象がある。

- ・電子図書館の利用状況について  
令和5年度に電子雑誌やクラシック音楽等が聴くことができるコンテンツを新たに追加したため、閲覧回数は前年度より増加している。
- ・障がい者サービスの実績について  
永山から移してきた障がい者サービスの利用実績の中で特に宅配サービスについて、コロナ渦は減少していたが、令和5年度はコロナ渦前の水準に戻っている。

(2) (仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について

図書館：続いて、(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」(以下次期計画という)について説明する。令和7年度に策定する予定として、現在、次期計画の策定を進めているところである。

【(仮称)「第二次多摩市読書活動振興計画」の策定について】

- ・計画策定の経緯  
多摩市読書活動振興計画を更新予定。図書館のもう一つの計画である、「多摩市子ども読書活動推進計画」と一本化する。
- ・次期計画の位置づけについて  
視覚障がい者等の読書環境の整備の推進の関する法律があり、図書館利用に障害がある方への対応も次期計画に盛り込む予定である。  
次期計画のポイントとして、各館毎の特色を盛り込む。試行的に実施している、唐木田図書館の窓口業務委託や東寺方図書館を会計年度任用職員のみで運営している点について、いつまでに方向性を出すかを次期計画に盛り込む予定。
- ・計画のスケジュールについて  
令和7年度9月頃に決定する予定である。
- ・策定体制について  
市役所の課長級の策定委員会、学識経験者や関係団体、一般公募の市民等から構成する有識者会議で検討。その他、学びあい育ちあい推進審議会や第三次子ども読書活動推進市民ボランティア連絡会などに意見照会を行う。
- ・市民参画について  
一般の方向けアンケートを実施。合わせて、児童、生徒、保護者、ボランティア団体、関係機関等子どもや子どもに関わる方々を対象別に分け、アンケートを実施し、集計を行っているところ。  
利用者懇談会(中央図書館、東寺方図書館)を実施。その他、障がい者サービス利用者の懇談会を実施予定。その他、市民説明会、パブリックコメントなど実施していく予定。

【(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画にかかるアンケートの集計結果について】

○一般向け(中学生以上)のアンケート結果

紙のアンケートを1,300枚配布し、379枚回収。WEBでの回答が279件であり、合計で679件。

回答された方の年代は、60代、70代、80代の方々が多く、全体の54%を占めた。

最もよく行く図書館は、中央図書館、永山図書館、関戸図書館と続いた。理由として、家や職場が近いことが一番多かった。

図書館のサービスの認知度は、商用データベース、レファレンスサービス(窓口で調べ物をサポートするサービス)について、認知度が低かった。

図書館の非来館サービスの認知度では、図書館のホームページの認知度が高い結果

となった。近年始めた「ナクソス・ミュージック・ライブラリー」や「多摩市デジタルアーカイブ」の認知度が低かった。

図書館に力を入れて取り組んでほしいことでは、蔵書の充実を望む声が一番多かった。子どもへの読書支援、本の並び方の変更・魅力化、高齢者向けサービスと続いた。

自由記入欄でも、蔵書について充実を希望する意見が最も多く、その次にサービスの向上やスペースの利用に関してであった。スペースの利用について具体的には、閲覧席の改善や座席数を増やしてほしいといったような内容が多かった。

#### ○子どもへのアンケート結果

小学校2年生、小学校5年生、中学校2年生、高校2年生、大学生を対象として、市内の全小中学校、高校3校、近隣の大学を含めた大学4校でアンケートを実施。

(傾向)

- ・高校生までは学年が上がるごとに好き・読書をする回答が減少し、大学生で微増。
- ・学年が上がるごとに1～3冊の割合が高くなり、読む冊数は減る傾向にある。
- ・家に本があり本を読める環境であるが、読む冊数が少ないことがアンケートから読み取れる。
- ・学年が上がるごとに、図書館に行かなくなると回答した割合が増えた。
- ・電子機器を使用して読書をするが少ない。また、電子図書館の認知度も低かった。

#### (3) 意見交換（図書館サービスについて）

図書館：続いて意見交換を行う。

利用者：本日中央図書館の活動室で利用者懇談会を実施していることについてアナウンスしたか。

図書館：チラシの配布とデジタルサイネージでの掲示をしている。放送はしていない。

利用者：利用者懇談会のポスターのみ掲示されており、チラシの配布はされていなかった。利用者から要望があってチラシを置いたと聞いている。

利用者：令和6年度の資料費の予算がいくらか教えてほしい。

図書館：電子書籍を含めて4000万円程度である。正確な数字は確認しないとわからない。

利用者：アンケートの結果で資料の充実を願う意見が大変多かった。中央図書館の開館もあり、資料を買う必要があるから予算がついていた部分もあったと思うが、開館した今予算が減るのではないかと懸念している。

図書館：ご意見として承る。

利用者：・表彰状について

2階のカウンターに表彰状あるのを知っているか。図書館が非常に優秀な照明設備であることを表彰されている。これを2階のカウンターに置かずに、1階の出入り口に堂々と置けばいいと思っている。

・新聞コーナーについて

私が新聞を読み、コピーを取るために図書館を利用しているが、日常使っていて、い

ろんな不都合を感じている。

開館当初、設計者が2階はちょっとした広場、1階は洞窟みたいな感じだと言っていたが、本当に新聞コーナーが洞窟のようである。とにかく照明が暗い。図書館協議会でも言われていたが、照度は満たしているという回答しか来ない。実際には暗いから、1階には表彰状を置けないのではと私は推測している。

関戸図書館と永山図書館は、新聞コーナーにソファが置いてあるが、中央図書館は置いていない。暗い場所でスポットライトを当てて、新聞を読むスペースはないし、本当に大変である。もう少し明るくしてほしいのと、障がいの方もゆっくり読めるような環境を整えてほしい。

・デザイン会議について

「やりたいことを実現する デザイン会議」について自分がやりたいことを実現できると期待して参加すると、実際には1人1案しか出せず、他の人の承認が必要であり、中央図書館開館1周年記念イベントでやるとの縛りがあった。このやり方はおかしい。たま広報に載るかと思ったが、掲載されず、図書館ホームページに掲載しただけであった。一般市民が何件応募して何件採用されたかをきちんと明示してほしい。

図書館：照明の関係について、表彰は2階だけでなく、1階も含めた両方の照明が対象となっている。2階は外光を取り込んで明るく、1階は洞窟をイメージして静かに読書に集中できるように、手元を明るく照らすような照明を採用し、基準の照度は保っている。ただ実際に新聞コーナーが暗いのご意見いただいていることは承知している。

新聞コーナーについてソファを置いてほしいと要望があったが、施設としてできることできないことがあるため、今後の運営に対するご意見としていただく。

デザイン会議について広報が図書館ホームページだけでは足りないとお話があった。紙媒体では印刷を行うにあたり期限があるため、難しい部分もあるがホームページ以外の周知も検討する。今回は、中央図書館開館1周年記念に合わせてイベントを実施するため、「図書館デザイン会議」を行ったが、9月に振り返り会議を開催して、その後、やり方を修正しながら継続して行う想定である。その中で日常的なイベントとして、どのようなイベントができるか市民の方と一緒に考えていきたい。限られたスペースの中で、通常開館している図書館でやりたいことを実現するためには、提案にたいし賛同が得られた企画を優先的に選定した。限られた条件の中で実施をせざるを得ないことはご承知いただきたい。企画の決定方法についても、皆様と検討していきたい。

利用者：図書館デザイン会議の中で、ボランティアの組織化について話があったが進捗はどうか。

図書館：組織化するか、組織化せずにこれまでと同様に都度募集するのがいいかということについても、この取組を進めながら検討し決めていきたい。

利用者：当時配布された資料には、ボランティアの形態として4つあると記載があったと記憶している。その4つの形態に分けたボランティア組織を作ろうとしている訳ではないのか。

図書館：そうではない。あくまで、資料では図書館のボランティアには4種類あるということを紹介したものである。子どもの読み聞かせボランティアや障がい者サービスの音訳・点訳のボランティア、イベントのボランティア、その他個別のボランティアとして例えば配架ボランティアなどがあるという紹介をした。

イベントのボランティアについては、「図書館デザイン会議」を実施して、まずは企画の立て方に関する講義をして、その後ワークショップ形式で企画の立案・決定をした。7月から12月までの間に実施してその振り返りの会議を9月に実施する予定である。

企画の提案方法や決め方など、全体の流れを振り返りの会議の中で、見直して、皆様と一緒にどうするかを話せればと考えている。

広報について、確かに周知する上ではたま広報への掲載が必要であるが、原稿の締め切りの都合上、掲載が間に合わなかった。これを反省として、広く広報をするため、たま広報への掲載もスケジュール管理していきたい。

利用者：・利用者懇談会の広報について

十分ではなかった。利用者から言われてチラシを置くのではなく、各館へ置くのは前提としてほしい。そういう意識を全館で持ってほしい。

・レファレンスについて

10万件のレファレンスの内、どれくらいが本当のレファレンスか知りたい。

その他、WEBレファレンスサービスが開始したが、どのくらいの件数があったか知りたい。

・図書館への意見について

以前、図書館協議会で委員長から図書館への苦情に対して、館内に貼りだして回答するようなことはしないのかと話しがあった。利用者の意見を取り入れ、その意見に対して図書館の考え・回答を示していくことは大事である。図書館へのご意見箱についてもしっかりと周知して、もう少しご意見箱の場所とかを工夫して、積極的に利用者の意見を吸い上げる工夫をしていただきたい。

利用者：市公式ホームページで問合せに対する件数を公開している。昨年度の実績を見ると、図書館は「生涯学習・スポーツ」に属しており、開館直後の7月以降件数が増加している。

このような問合せを活用することが大事であり、それを公開すれば同じような質問に対して、何度も回答する必要がなくなる。例として、ティーンズ交流ボードがある。シニア向けの交流ボードもやってほしい。

図書館：レファレンスについて、内容は特定の本を探していて、どこにあるか、多摩市の図書館で所蔵しているかの問合せが多い。令和5年10月から開始したWEBレファレンスサービスは令和6年3月末時点で13件。

利用者：中央図書館のレファレンスカウンターに椅子がなく、腰かけてレファレンスができない中央図書館には相談室があるが、どの程度利用されているか。

図書館：レファレンスはカウンターで受けているため、個人的な情報が流れる可能性がある場合に、相談室を活用している。そのため頻繁に利用しているわけではない。

図書館：ティーンズ交流ボードについて、見ていただけていることは大変うれしく思う。シニア向けについてはご意見としてお受けする。このボードで受けたご意見については、サービス係以外の関係する係にも必ず共有している。

利用者：多摩市の中でも特に高齢化している豊ヶ丘地域にある豊ヶ丘図書館で高齢者向けの催し

物をやってほしい。そのために分館の役割として、身近な地域の図書館でこういったことができるのか広報を行ってほしい。多摩市は全市7館あるわけだから、非常に配置的には良いと思うが、分館の役割ということも考えてほしいと思う。

また、児童コーナーについて、子どもが児童コーナーに来ないから児童コーナーをやめたと把握しているが、高齢化ではあるが子どもはいる。子どもが来ない理由も調べてみる必要があると思う。図書館と地域とのつながり、親しんで図書館を利用していく雰囲気を作っていくといけないと思う。

図書館：豊ヶ丘も地域として高齢化が進んでいるというところで、使っていただける方が高齢者ということであれば、そういった方たちに向けて図書館でできることを周知する必要があると考えている。豊ヶ丘の施設建て替えも見据えて皆さんにご意見いただきながらどういう使い方ができるか検討していきたい。

児童コーナーがなくなっているとお話については確認する。利用者の状況を見ながらコーナーの広さを変更することは利用状況によってはあるが、児童コーナーは図書館としても大事だと思っているため、継続する方向で考えている。

図書館：他に発言されていない方で意見がある方はいるか。

利用者：・Wi-Fiについて

毎年頼んでいるが図書館など公共施設にWi-Fiを入れてほしい。中央図書館にはWi-Fiが入ったが、地域館や拠点館にも入れてもらいたい。3年ほど前に一般質問でWi-Fiを入れてほしいという質問があった。部長たちが、声高らかにどこでも仕事ができると言っていたくらいなので、進められると思う。図書館として分館にもWi-Fi導入が大事であるということをお伝えしてほしい。Wi-Fiが入ればIT技術が使えるため、例えば東寺方など地域館で使うことができれば便利だと思う。

・多摩市の図書館情報について

何年も要望しているが多摩市の図書情報をデータとして出してもらいたい。どういった図書があるのかをオープンデータとして出してもらえれば、それを市民が使える。3~4年ほど要望を出し続けている。2年ほど前に情報政策課に問い合わせたら図書館がやると決めればいつでもできるといわれた。リアルタイムに毎日出す必要はなく、例えば半年に一度くらい市役所のどこかにオープンデータとして出してほしい。この件は利用者懇談会の中で必ず発言しているし、図書館も検討するとも言っているので、検討を進めてもらいたい

図書館：まずWi-Fiについて、中央図書館では使える形になっている。一挙には難しいにしてもまずはここにしたいということは図書館として言っている。しかし全庁的な考え方の中で、できないという判断もある。図書館としての考えを伝えていくという部分は継続していく。

もう1点のオープンデータについて。確かに承っているが、冒頭の説明でも言っているように多摩市の図書館は81万冊ほどデータがある。そのためデータもかなり膨大な量となっているため全て出すというわけにはいかず、必要なものを分別して出すとなるとすぐにできない。そのため検討中のままとっている。

利用者：依頼しているデータは本の名前、ISBN番号などそのデータのみである。それがあると、

図書館にこういった本があるのかすぐにわかるし、年度ごとの本の増減がすぐわかる。分析にも使えるし、図書館の内部でも使えると思う。例えば棚卸なども、ファイルのデータとしてやれば、もっと自動化もできると思う。

本当はわざわざ図書館に頼まなくてもできるが、それをやると図書館のホームページに強い負荷がかかるため、図書館対応の方が簡単にでき便利だと考える。

利用者：図書館の本の一覧をホームページなどでオープンデータとして公表してもらえると、利用者はデータを見ながらどういう種類の本があるのかなど、いちいちホームページを見ないで計算機を使わず処理ができるようになるため、ものすごく便利。例えば将来プログラミングをやりたい人がいたとしたら、図書館のデータもプログラミング教育に使える。

利用者：その本のデータの打ち込みなんかはボランティアでもできるのではないか。

利用者：打ち込みは必要ない。本のデータはシステム業者が持っているはず。

図書館：市としては、データとしてあるため、内部的には活用している。

利用者：他の図書館で、すでにオープンにしているところはあるのか？

利用者：国会図書館は全部出している。

図書館：国会図書館は出しているが、それ以外の地方自治体の図書館だと、やはり絞った形で出しているところが多い。

利用者：大阪や千葉県の図書館で出しているところはある。国会図書館が行っているのは、固定のデータを出しているのではなく、API などプログラムで国会図書館の中を検索出来るようになっていて、それが活かされている。関連して、大学のプログラミングなどこういったものを作りたいと考えている方たちもいる。そういった方にも役立つと思う。また、市の施策として様々なアイデアを出せるし、市役所職員だけでなく有志の力も借りられる。非常にいい施策だと思う。

図書館：複数人の方から意見があるということで承知した。大学などももしかしたらコラボできるかもしれない。

利用者：・活動室について

多摩市の図書館の表紙の最下部に記載されている令和5年度のトピックスの最後に中央図書館活動室に施設予約システムが記載されている。活動室の使い方が変更する際、子ども読書の市民連絡会議で市民向けの説明会を開いてほしいという要望を出したが実現しなかった。トピックスとして入れるほどのことだったのに、市民説明会でその要望が実現しなかったことはすごく残念に思っている。子どもの読書活動をこれからも市民協働で行っていくうえで、活動室の使い方が変わったということについて納得できない。市民の皆さんと一緒に考えたかったため、説明会を開いてほしいと要望したし、市民協働などを考える中で使い方について改善させないといけないと思っている。

・サテライトカウンターについて

サテライトカウンターに児童サービスの担当者を常駐させてほしい。子どもの要求や、子どもの本や児童サービスを知る上での基本的なことだと思う。現在休日しか常駐されていないことに疑問がある。もともとサテライトカウンターを作った目的からすると常駐が当たり前だと思う。ただの展示の場所に代わっているやり方は是非改めていただきたい。

図書館：活動室については、以前要望をしたのに説明会が実施されなかった状況を把握したので、ご意見として受け止める。

サテライトカウンターについて、本来であれば平日も常駐できればいいが、現在は休日だけ常駐となっている。子どもの利用など様子を見ながら限られた職員で運営しているため、なかなか対応ができていない部分がある。夏休みなどは様子を見ながら配置を考えていきたいと思っているが、現時点ではサテライトカウンターに人を常駐するところまでの対応というのはできていない。

利用者：これからの計画の中でも皆さんと検討していきたい。ただ利用を見ながらではなくて、常駐することにより子どもたちが来るという考えにした方がいいのではないか。そこがまず違うのではないかと思う。常駐すれば子どもたちがもっと来るし、面白くなると思う。いないからそこにいる必要はないということではないと思う。

図書館：場合によっては試行的に常駐して様子を見るなども考えたい。

利用者：聖ヶ丘では利用者懇談会は開催しないのか？ どうして毎年2館での開催なのか？

図書館：職員の対応ができる範囲ということで、毎年2館での開催としている。

利用者：地域の図書館の利用者懇談会で、それぞれの地域で必要なのではないか？ 中央図書館は遠いため何回かしか来たことがない。一番は聖ヶ丘を利用しているのだが、利用者の声をざっくばらんに聞くというのが利用者懇談会ではないか？

図書館：現時点で約束はできないが、ご意見としてお受けする。

利用者：どなたかが参加者が1人しかいなかったと言っていたが、1人や2人でもその人たちの話を聞くのが利用者懇談会なのではないか。中央図書館の利用者懇談会のように職員全員が出てこなくても良いが、利用者懇談会はやはり各館で1年に1度は開くべきではないか？ 要望はあったが改善されなかったということだったが、2年に1回でいいというのはどういう考えなのか？ 私には理解できない。あと読書活動振興計画についても意見がある。

図書館：読書活動振興計画については、この後の時間で予定している。まだ意見がある方がいるため、お伺いする。

利用者：児童コーナーにはやはり人が常時いた方が良くと思う。子どもが来たら対応するという姿勢が図書館側にあると、子どもも喜んで来ると思うので是非お願いしたい。

また別件で、図書館として多摩市の歴史を講座形式で行ってほしい。前に古文書研究会などが団体として活動していたが、そういった多摩市の歴史について最近開催が少ないと感じる。新しく多摩市に入居してきた人たちも多摩市について知る機会になるし、地域の人同士が歴史的に自分たちの住んでいるところを知って、その中で協力し合える地域づくりにも大事なことではないかと思う。ぜひそういった事業を図書館で行ってほしい。

図書館：児童のカウンターについては先ほどの意見と同様であると受け止める。

歴史についての事業は、古文書とは違うがニュータウンの歴史にまつわる講演会などは今年度も開催している。また図書館だけでなくパルテノン多摩など他の施設等も含めて行っているため、ご意見として受け止める。

### (3) 意見交換（(仮称) 第二次多摩市読書活動振興計画について）

利用者：前回の読書活動振興計画や公共施設のプログラムについて改めて行政資料室で教育委員会での議論などを読みなおしたが、結局市民の声に押されて最初の提言を撤回している過去がある。そのため地域館の存続やサービスがどうなっていくかということ进行を明らかにしてほしい。計画と公共施設の見直しは別の問題ではない。その点について市の中で図書館にはどういうプレッシャーがかかっているか、お金の面も含めて説明して欲しい。

図書館：(仮称) 読書活動振興計画の検討と合わせて、公共施設の今後の在り方を今まさに市役所内でも考えているところである。図書館も複合施設の中に入っているため、どういった図書館が必要なのかということ进行内でも考えていく必要がある。豊ヶ丘など公共施設の今後を考える説明会も、聖蹟桜ヶ丘と永山で開催した。そこでは児童館とコミセンの配置について個々の考え方も示された。中央図書館の運営方針では、中央図書館を核として図書館ネットワークを構築し、市内全域にサービスを展開していくとなっている。それを踏まえて駅前拠点館・地域館で、どういったサービスをしていくのか、今後の在り方をどうしていくのかという部分は皆さんから意見をもらいながら計画として盛り込んでいく必要がある。この計画をもとに今後地域館のサービスの在り方なども検討していくようになると考えている。

また唐木田や東寺方の運営方法は他とは異なっており、運営方法について検証がまだできていない状況である。委託や常勤職員がいらない運営について1年後に決定する計画のなかで方向性を出すというところまではなかなか難しいところもあると思う。この計画の中には検証結果を出す時期について明記したいと思っている。そのスケジュールに合わせ、唐木田の委託運営がどうだったか、常勤がいらない東寺方の運営がどうだったかを検討していく予定。

利用者：運営方法についての検証はどうなっているのか。かなり前から言われており、アンケートなどにも書いたような気がする。いまだにこれから検証なのか？

図書館：内部ではもちろん実際の状況や様子も確認して、通常の運営との違いなどは把握しているが、現時点で外部に出せるような状況にはない。

利用者：9～10年前に、図書館や市が甘く見ていたと思うが、地域館がいよいよ一方的につぶされるという事態があった。このプログラムは2010年に少し変更され、中央図書館ができる

までは地域館も存続、中央図書館ができれば様子を見ながらどうするか決定するとプログラムに記載された。中央図書館の運営方針の中では、地域館については中央図書館ができてから様子を見ると書かれており、その際4団体で非公式ではあるが、館長にどのくらい様子を見るか聞いた。その際1年は様子を見ると言っていた。去年、中央図書館が開館し現在1年経ったが、中央図書館としては今どう考えているのか、中央図書館にたくさん人が来ているから地域館はやはりいらないと思っているのか、中央図書館として地域館をどう思っているのかということを出さないで困る。行動プログラムと中央図書館管理計画の上下関係はわからないが、行動プログラムによって、バツサリ地域館をつぶすということを一度は記載されたため、図書館の計画を書いたとしても行動プログラムなどで再度変更がされるということはないのか？中央図書館ができて1年経ったが地域館のことを図書館としてどう考えているのか？

利用者：中央館が開館し多くの方に利用いただいているが、各館の利用は減っていない現状がある。話を聞くと、中央館に来たが、落ち着かなくて地域館に通っているという声も聞いている。図書館としては中央館と地域館では役割が違っているとされており、地域図書館は地域に根ざした居場所となっていると思うので、その地域にあった形で存続をしていきたいと考えている。以前の計画で、地域図書館はかかりつけ医、中央図書館は総合病院という考えもあり、実際に利用されても雰囲気などの違いというのは感じていると思う。新しい計画では、地域図書館としてどういったサービスが必要か明確に出していきたい。市役所内でも、図書館としての思いをしっかりと発言をしていきたいと思っている。

利用者：だからこそ、先ほど意見があったように利用者懇談会を全ての図書館で開いてほしい。その思いを受け止めて、それを市役所内で伝えることが必要なのではないかと？やはり全館で利用者懇談会を開き、利用者を応援団に仕立てて思いを伝えるのが図書館の仕事であり、自分たちの仕事の誇りではないかと思う。

利用者：そう言っていただけるとありがたい。豊ヶ丘からここまで来るのが大変。1人や2人しか参加者がいない場合もあるかもしれないが、なるべく周りにも声をかけて出してもらいようにお願いするので、1年に1度くらい是非各地域館でも利用者懇談会をやってほしい。

利用者：施設が削られていってもアウトリーチという形で図書館が地域へ出向くという考えがあったと思うが、今後実施していく考え方はあるのか？もし東寺方図書館がなくなったとしても、その地域に図書館が出向いてサービスをしていくことによって、図書館がなくなったことを補足していくような話が出ていたように記憶している。パルテノン多摩もそうだが、中央図書館は専門的な知識など様々なものが詰まっているため、総合病院に例えられる中央図書館の専門委員が地域館や施設にアウトリーチしていく考えがあってもいいかと思った。

図書館：基本的には地域図書館を存続していくという話になっているため、アウトリーチについて現時点では考えていない。

図書館：時間の都合上現在手を挙げられている方のみとしたいが良いか。発言していない方から意見はあるか。

利用者：最初提案があったように、もう一回利用者懇談会を行うと約束いただけるなら良い。

図書館：ご意見としてお受けする。

利用者：先ほどの地域館で利用者懇談会を開催してほしいという話と関連して、公共施設再編についての話し合いの中で豊ヶ丘図書館の規模を小さくすることが提案されていた。図書館が小さくなる心配があったが図書館職員がその会合に来ていなかったため、職員に地域館の重要性を理解して関わってほしいと思う。実は豊ヶ丘のプログラムについて、話し合いが進んだ際、合意もできていないのに設計図がホームページにアップされたことがあった。一般の方からみると公認されたと思うような掲載だったと記憶している。その時の記録で、2階の読書室が暗いため廃止した方が良いという意見が庁内で出ていた。豊ヶ丘図書館の実情はかかりつけ医というより、学術的な資料を読んだり専門的なレファレンス要求などもある図書館である。また若い方から、2階は非常に明るい部屋で春だと桜を見ながら読書ができて素晴らしいといった意見もあった。利用者懇談会を各館で行うと、庁内で検討したイメージと違う実情が出てくると思う。公共施設再編の部分で図書館は必ず関わってくるため、面積の問題だけでなくどういう形の図書館が必要なのかということを利用者懇談会で話しをすると良いと思う。

関連して、先ほど意見があった新聞コーナーについて、高齢になると照度が明るくても外からの明かりが低いと暗く感じることもある。そういうことは図書館の中だけじゃなく実際に使われている高齢者とも一緒に議論して工夫されると良いと思う。

利用者：計画について、(仮称)となっている。この表題だけでみると、読書活動の振興計画と単純に思ってしまう。計画のなかに目標や基本理念があるためふさわしい名称を考えてほしいと思う。読書活動振興計画ではなく、目標や基本理念について議論する計画なのだというを組み込んでほしい。

図書館：図書館や有識者会議でも、名称について図書館全体の計画、基本計画にした方が良いのかという意見や、読書をすすめるような施策は図書館だけで進めるわけではないため図書館の基本計画という名称はふさわしいのかなど、様々なご意見をいただいている。ずっと仮称で進めることも良くないため、なるべく早めに決めていきたいと思っている。

利用者：今更遅いが、有識者会議について各分野の代表者が有識者として出ているが、市民代表を2枠ではなく、希望があればせめて倍くらい設定してほしい。分野ごとに委員がいるということは理解しているが、市民の中でも思いがある方がたくさんいる。2人ではなくもう少し市民代表を出してほしいと思う。

図書館：参考にさせていただく。

利用者：アンケートに書いても記録に残らず不十分なため、もう一回利用者懇談会の開催を希望することをお伝えする。

また根本問題として、中央館が完成し計画に沿って人員は確保されたが、その結果地域館にしわが寄っている現状をこれからどうしていくのかがこれからの計画の中のポイントになる。人や資源、施設とか資源の裏づけがないと全く意味がないし、結局中央館は栄えて地域館は廃れるということになりかねないと思う。ただでさえ地域館は館長が兼

務で、こういう公共図書館は全国見回してもきわめて稀である。要は係長ポストが中央館にほとんど集約されてしまい、その結果、地域館のサービス向上など日ごろの業務が不十分になりかねない現状がある。近隣の図書館も利用しているが、そういう館はない。よって改めて中央館が開館してこれからどうやって持続可能な運営していくのかを、個々の地域館だけでなく全体として検証する必要があると思う。中央館は栄えているから良いという程度で議員が納得してしまえば、予算の配分だって受けられない。やはり先ほど申し上げたように利用者懇談会などで地域の皆さんに味方になってもらい、その上で必要なサービスは何かということ計画の中に入れていくことも大事だと思う。また、計画がゴールではなく計画をどう実現していくかということが重要なのだが、この資料だと計画策定までのスケジュールしかない。その後、どのようにそれぞれのサービスを具体的に実現していくのかということまで描くことが今後において大事だと思う。またアンケートにも書いたが、もう済んだ本館の再整備の資料は全館に置いてあるが、計画策定についての資料は私が要望してやっと行政資料室、中央館に資料が置かれた。各館でも自分の問題として資料が見られるような体制を作ってほしい。また繰り返しになるが各館でこういう懇談会を開く。それから中央館については言い足りないことがたくさん残っているように見受けられるので、もう一回継続的に懇談会を開催することを要望する。

図書館：今の意見のとおり中央館だけの計画ではないため、中央館を核とした市内図書館全体の計画となるよう進めていきたい。素案が今年度中に出来上がる予定である。当初は中央館と関戸・永山のみで説明会をしようと思っていたが、やはり地域館にも出向いて説明をし、その際皆さんと直接意見交換する場を設けていくことも考えていきたい。

利用者：説明会ではなく利用者懇談会。利用者懇談会を全館でやってほしい。

図書館：要望については承知した。

(閉会)